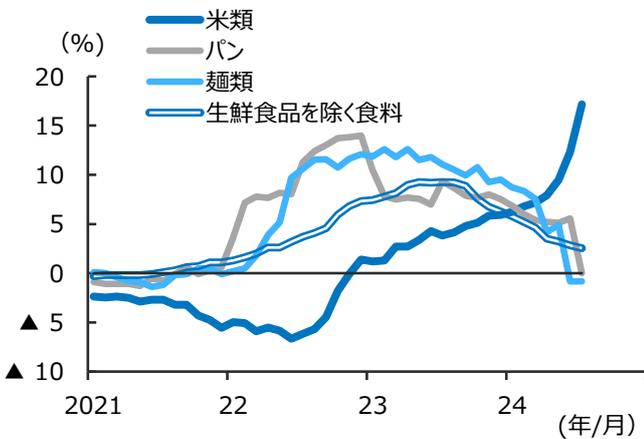


コメ価格急騰も物価全体への影響は限定的

— 低所得層への打撃には要注意 —

- (1) コメの価格が急騰。7月の消費者物価のうち米類は前年比+17.2%に上昇（図表1）。この背景として、昨年生産されたコメが猛暑などで不作であったほか、南海トラフ地震発生への警戒感が高まったことを受けて備蓄需要が強まったこと等が指摘可能。パンや麺など食品全体の値上げが緩和方向にあるのとは対照的。
- (2) 今後もコメ価格の高値が続く可能性。9月には新米が店頭に並び始めており、品薄感は解消されつつあるものの、農協がコメ農家に支払う概算額が昨年よりも増加。主要ブランド米の概算額は前年比2割高（図表2）。コメ価格の上昇は、とりわけコメの支出割合が高い低所得世帯にとって打撃（図表3）。低所得世帯は近年の物価上昇で家計が圧迫されているだけに、コメ価格の上昇はそれに追い討ちをかけるかたち。
- (3) ただし、コメ価格の上昇は物価全体の押し上げには至らず。仮に現行の伸びが続いたとしても、消費者物価（総合）を0.1%ポイント押し上げるに過ぎず。さらに、コメ加工品はせんべいを除いて大幅な価格上昇はみられず（図表4）。コメ加工品では、コスト全体に占めるコメ比率が低いほか、外国産米が多用されていることから、その価格は輸入原材料や燃料費に大きく左右される一方、国内のコメ価格の動きには連動せず。

（図表1） コメとその他食料の消費者物価（前年比）



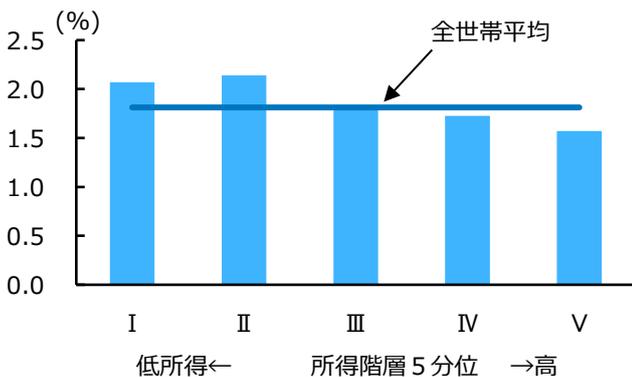
（資料）総務省「消費者物価指数」

（図表2） 主要産地の米の概算金（2024年度）

産地	銘柄	1等60Kg (円)	前年比 (%)
北海道	ななつぼし	15,400	26.0
青森	まっぐら	15,000	28.0
岩手	ひとめぼれ	17,000	27.1
秋田	あきたこまち	16,800	28.0
山形	はえぬき	16,500	26.1
新潟	一般コシヒカリ	17,000	18.2
茨城	コシヒカリ	18,000	29.4
富山	コシヒカリ	16,000	18.8

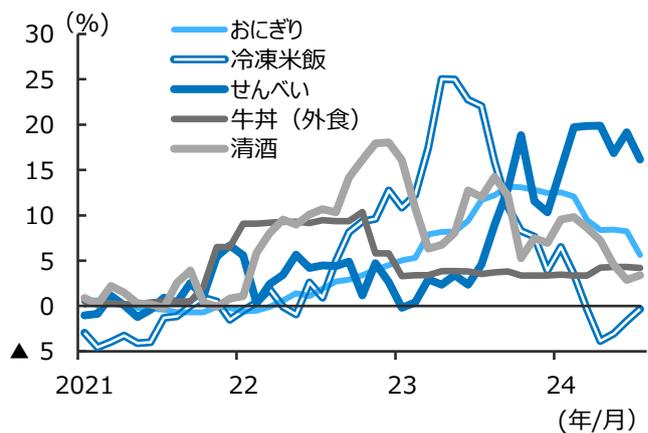
（資料）各種報道から日本総研作成

（図表3） 食料支出に占めるコメ支出の割合（2023年）



（資料）総務省「家計調査」を基に日本総研作成
（注）総世帯ベース。

（図表4） コメ加工品の消費者物価（前年比）



（資料）総務省「消費者物価指数」

【ご照会先】調査部 主任研究員 小方尚子 (ogata.naoko@jri.co.jp, 080-4353-7019)

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものでありますが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとして執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。